

北里大学獣医学部附属動物病院獣医師研修プログラム

平成23年8月30日制定

(研修の目的)

本研修は、小動物臨床獣医師として必要な基本的知識ならびに技術を修得すること、また各専門科における診療からより高度な知識・技術を修得することを目的とする。

(研修の概要)

研修医は、内部研修医(常勤)と外部研修医(非常勤)から構成される。内部研修医における研修1年目は、主要診療科を総合的に研修する。ただし、1年間の研修修了に相当する臨床経験があると病院長および指導教員が認める者については研修2年目のプログラムから開始することができる。

研修2年目以降は、内科、外科あるいは放射線科の特定診療科における専門的臨床事項を重点的に研修する。主とする研修診療科の診察がない日においては他の診療科において研修を行う。なお、外部研修医は、研修2年目のプログラムから開始するものとする。

(研修内容)

I. 研修1年目

以下の各診療科のラウンド(全科)を通して、診察、検査、診断、処置ならびに予後判定などの基本を習得する。

月曜日	外科	；	軟部外科、麻酔・救急科
火曜日	内科	；	腎泌尿器科、内分泌科、循環器科、腫瘍科
水曜日	放射線科	；	放射線治療、画像診断、一般臨床
木曜日	外科	；	整形外科、軟部外科
金曜日	内科	；	皮膚科、眼科

1) 診療全般に関する事項

- (1) 診断と治療方針
- (2) 病態と薬剤の選択
- (3) 薬剤の内容、投与方法と副作用
- (4) 栄養管理など

- ・診察：診療に対する心構え、稟告の聴取、身体検査、診療記録などを習得する。
- ・インフォームド・コンセントの実践：罹患動物の飼育者への説明と同意、診療料金などの説明を実践する。

・臨床検査：血液一般検査、血液生化学検査、尿検査、糞便検査、細胞診などを実施し、解釈できる能力を修得する。

・採血法、注射法、穿刺法、採尿・導尿法、処方・薬物療法の実施

・X線ならびにX線CT検査法（X線撮影、X線読影、各種造影法など）、MRI検査法、PET-CT検査法、理学的検査法（心電図・心音図、血圧など）、内視鏡検査法、超音波検査法などを必要に応じて実施し、解釈できる能力を修得する。

・輸液、輸血法の適応決定と実施

2) 外科的処置

・心構え

・滅菌・消毒法の知識・技術

・局所麻酔と全身麻酔法

・基本的な外科手術手技

・術前・術中・術後の管理法

3) 救急処置法、蘇生法

4) ターミナルケアの知識、技術

II. 研修2年目以降

特定診療科における研修カリキュラムには、以下の内容を含む。

1) 内科（診断法、治療法、病態管理、予後判定法の習得と実施）

(1)皮膚科

(2)眼科

(3)循環器疾患

(4)内分泌疾患

(5)腎泌尿器疾患

(6)腫瘍科

(7)行動異常疾患

(8)消化器疾患

(9)感染性疾患

(10)遺伝性疾患

2) 外科

(1)整形外科

(2)軟部外科

(3)麻酔・救急科

- ・手術実習（実習犬を用いた手術演習の実施）
- ・外科専門医制度への参加を希望する場合、詳細は外科専門医制度の規定に準拠する。

3) 放射線科

- ・画像診断法の習得
- ・放射線治療の実際と照射法の習得
- ・単純および造影X線撮影法の実際と読影法の習得
- ・X線CT断層撮影法の実際と読影法の習得
- ・磁気共鳴断層撮影（MRI）法の実際と読影法の習得
- ・PET-CT検査法の実際

4) その他の共通事項

- (1) 月1～2回の教員によるレクチャー
- (2) 獣医師会関連学会等における症例発表
(学会発表を行う際の学会参加の交通費補助)

(研修成果の評価)

研修獣医師の自己評価、指導医の評価に基づき評価する。

(修了証)

2年間以上の研修を修了し、獣医師として十分な知識や技量を修得したと認められる者について研修医プログラム委員会の了承のもと、病院長は修了証を授与することができる。

* 本研修プログラムは、日本獣医師会の定める獣医師卒後臨床研修指針、獣医師生涯研修事業小動物獣医師向けカリキュラムに準拠して作成する。

(海外研修)

2年間以上の研修を修了した獣医師のなかで、米国3大学附属動物病院における2週間の臨床研修を希望する者に対し、研修費を補助する。